

第六支部

～ Lock on ～

埼玉県診療放射線技師会

第六支部

・巻頭言

巻頭言

埼玉県立小児医療センター 畠山 祥一

私は物事に対して考える際に視野が狭い傾向にあると思う。

私は小学6年にソフトテニス始めた。中学に入ってから試合で勝つことも増え、地区大会では同世代の選手よりも速い球を打つことができ、自分でも上達していると感じていた。強豪校の講習会などでは打つ際のフォームについて指導を受けることもあったが、慣れないことが多く、違和感が強いあまり話を聞かないこともあった。今がうまくいっているの、このままでよいのではないかと思っていた。しかし、それから高校に行って自分で勉強し、ほかの強い選手のインタビューなどを見ていると当時に言われていたことの意味や重要性に初めて気が付き、実践することでより勝てるようになった。もっと早くから始めていればより良い結果を残せたのではと後悔している。自分の今していることが全て正解であると思いついてきたが、正解から遠回りをしてきた。なんなら間違いである可能性もある。

私は診療放射線技師として仕事をして6年目になる。自分で勉強したことや経験したことをメインで考えることが多かったが、それはまだまだほんの一部であるし、自分よりも経験のある先輩方の言葉や、同期・後輩でも考え方ややり方から学べることも多い。自分にはない視点での考えがあるので多くの話を聞くようにしていき、広い視野を持てるようにしたい。

またコミュニケーションを取ることが苦手である。早口であることと声が小さいため、相手が聞き取れないことも多い。ここ数年、コロナによりマスクの着用が当たり前となり、なおさら聞き取ってもらえないことが増えた。仕事の際は意識して聞こえるように声量や話す早さに気を付けているができていないこともある。患者への説明や他職種との連携の際にうまく伝えられないと円滑に検査を進めることができないため改善していきたい。

話し方もそうだが伝え方にも注意していきたい。私は自分の伝えたいことを伝えようとするとき、すべての内容を伝えようと説明が長くなりがちで、人によっては伝わらないこともある。一つの方法だけでなく、いくつかの手段を持つことで伝えやすくなると思う。本を読んだり他人の話し方に注意して自分のコミュニケーション能力向上に努めたい。